

平成25年第1回西之表市議会定例会

【所信表明並びに提案理由説明】

[平成25年3月4日午前10時]

西 之 表 市

おはようございます。

本日、ここに平成25年第1回西之表市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位にはご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、私は、市政運営を進めるに当たって、より多くの市民の皆様や各種団体の方々のご意見を伺うことが重要であるとの考えから、対話の場をつくり、^{もろもろ}諸々の政策を講じてまいりました。今回の選挙において、改めまして、市内の隅々を巡る中で、数多くの方々のお話を聞くことができ、市政に対する貴重なご意見を様々いただき、西之表市の現状をつぶさに確認することができました。解決すべき課題が山積していることを実感したところであり、これからの4年間、初心に帰り、市政運営にまい進する決意でございます。

さて、安倍政権の誕生は、閉塞した日本経済を活性化しつつあり、円安効果で輸出産業が好転する一方、輸入品であるガソリンに続き、電気やガス料金の値上げが予定されています。さらに、小麦価格の引き上げも取りざたされており、パンや麺類など消費者物価を押し上げる懸念が出てまいりました。また、国外に目を転じれば、「金融危機」や「雇用問題」が解消された訳ではなく、その前途が洋々と

開けているものでもありません。雇用の改善や所得の増加なくしては、日本経済の浮揚はないと考えますが、企業景気の回復と国民への配分がいつ、どのように始まるのか、大変危うい経済のかじ取りが続く局面を迎えていると感じております。

このような、混迷とした時代には、先行きの見えないことで不安な心理となりますが、現実を直視し、しっかりと足を地につけて、これからの時代を見通さなければなりません。離島というハンディを克服し、広い視野から将来を見据え、市政の舵取りを行わなければならないと考えております。

そのようなことを踏まえ、私のこれからの市政運営の考え方を申し述べたいと思います。

私の基本的な政策は、長期振興計画に盛り込まれており、「絆で創る、魅力あふれる豊かなまち」を将来像に、これを達成する道筋として、「雇用の創出」、「子育て支援」、「地域の再生」の3つの重点課題と、「市民との協働・連携」、「本来の自治を確立を目指す取り組みの推進」、「循環と共生による豊かな環境社会の形成」の3つを基本目標を設定し、併せて、「市民目線」、「改革への挑戦」、「信頼される効率的な行政」を経営理念として、これまで市政運営にあたってま

いりました。

引き続き、この将来像を実現するために、選挙時に約束をした新たな項目を加えながら、「市民の安心・安全を守り、西之表市に活力を取り戻す」ために、市政をリードしてまいりたいと考えております。

この想いを成し遂げるためには、仕事を動かす市職員の熱い思いと協力が必要であります。職員がその使命を自覚し、公平かつ公正な職務を遂行するとともに、これまでにない自由な発想と、意見を交わせる風通しの良い職場環境をつくってまいりたいと考えており、その一つとして、仕事と生活の両立を図る取り組みを実践することとしており、女性が働きやすい環境もつくってまいります。

ただ、職員数を大きく減じる中で、業務量は確実に増加しており、これに対応する組織機構とアウトソーシングなどを活用した効率的な事務執行体制の構築が必要と考えております。

その一方で、市民の皆様にも、市政への関心をもち、政策形成に参画し、それぞれの役割と責任のもと、連携・協働し、公共分野を担っていただくことが必要であるとも考えています。

市民の代表である、市議会議員の皆様とは、この議場において、

市政発展のために、己の発言に責任を持ち、対話を尽くしてまいりたいと考えます。共通の土台は、「市民、生活者の視点」であり、そうした議論の積み重ねが西之表市を発展させる唯一の道であり、「住みよいまち」に繋がるものと信じます。

私がこれまでの人生の中で経験してきた感覚をもとに、私信に基づき、対話を重視し、生活者起点で、透明性の高い市政の実現を目指してまいります。これらを実現するための具体的施策を講じることが私に課せられた使命だと理解しております。

私は、市民の皆様とともに、次に掲げることを基本にまちづくりを進め、西之表市の更なる発展と活性化を目指してまいります。

今、私が描いている「西之表市の姿」は、馬毛島への米軍空母艦載機の訓練基地誘致による補助金を頼むのではなく、この豊かな自然環境と広く温かい心をもつ市民に支えられた、次世代の子供たちが夢と希望をもてる、笑顔のある暮らしの実現であります。

そのためには、産業の振興は重要であります。働く場や所得の向上なくしては、生活は成り立ちません。産業振興の基盤は、皆様が異口同音にいわれる地域資源を活用した第一次産業の強化であります。ただ、TPPに象徴されるように、農業を始め第一次産業も国

際競争にさらされていることを認識する必要があります。一朝一夕に自立することは難しいことですが、島の特性を最大限活かし、離島振興事業など国の様々な施策を活用しながら、6次産業など新たな取り組みに挑戦し、持続可能な将来の姿を展望して、苦しくても歯を食いしばって、努力していくことが必要ではないかと考えます。

また、経済の活性化のためには観光産業の育成も重要です。テレビ放映の影響もあるのでしょうか。少人数による来島者が増えていると聞いています。かつての鉄砲伝来のように、人々の往来が活発になることは、様々な情報を手に入れることにも繋がります。民俗芸能や史跡など優れた文化を生かし、また、スポーツ交流やグリーンツーリズム、宇宙基地や世界自然遺産も活用しながら交流人口を増やし、外に開かれた元気なまちづくりを進めてまいります。

一方では、私たちのまちも、高齢化が進み、様々な課題が表面化しています。医師や医療スタッフの確保、障害者福祉や介護事業の充実、交通手段の確保、見守りや高齢者等配食サービスなど日常生活を支える機能の充実が求められています。障害者や高齢者など社会的に弱い立場の人をしっかりと支え、どんな人でも生きがいをもって安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、高齢者学級や老

人クラブなど社会参加を促すための交流の場を整備し、趣味やスポーツなど多様な仲間との触れ合いを通して、健康的で生き生きと暮らしていけるまちづくりを進めます。

これからのまちづくりは、自己責任と自己決定のもと、そこに暮らす人たちが主体となって自分たちの目指すまちづくりを進めることが必要です。行政と協働して西之表市の未来を創り出す体制を整えることが必要であり、情報を共有し、知恵を出し合い、役割分担して進めていける仕組みを考えてまいります。

次に、少子化がもたらす影響も大きなものがあります。本市の出生率は全国でも高いものとなっていますが、未来への宝である子ども産み育てることを社会全体で支援する必要があります。このため、種子島産婦人科医院の更なる機能強化や保育料の軽減、乳幼児医療制度の拡充、子育て応援券の発行など子育て家庭の経済的負担の軽減を引き続き図ってまいります。

また、学校教育においては、児童生徒数の減少による学級の複式化や団体活動が制約されるなど授業を行う際にも大きなハンディがあります。次世代を担う子供の教育は最も重要であり、子どもたちが健やかに育つ環境を創るため、人的な配置や教職員の指導力、特

色ある歴史・文化を活用した学習環境を計画的に整備することも肝要であると考えております。

さらに、未来を担う青少年の健全化を図るため、各種の生活体験、指導者やジュニアリーダーの養成など青少年育成の環境づくりを一体的に進めてまいります。

次に、地域の再生のため、地域活性化交付金や定住促進事業を創設し、市街地と大字のバランスのとれたまちづくりを進めてまいりましたが、地域が抱える問題や活性化のため、更に、新たな取り組みへの支援や体制づくりを推進し、地域の担い手となる人材の確保を図りながら、共に支え合う地域づくりを進めてまいります。少子高齢化や核家族化等により、地域における人と人や世代間の繋がりが希薄になってきている中で、「結い」という、かつての地域社会を支えてきた助け合いの仕組みを見つめ直し、自然と人、地域と人、人と人との絆やつながりを大切にし、地域力の維持と強化を図り、力を合わせて元気で住みよい地域づくりを目指します。

次に、確実に発生する南海トラフ巨大地震への備えを急がなければなりません。国の有識者会議の被害想定は、死者数は最大32万人、建物の全壊238万棟と発表されています。ただ、迅速な避難

により津波の死者数はその8割を減らせるとも述べています。市民の防災意識の向上を図るとともに、自主防災組織の育成、避難訓練の実施、建物の耐震性の強化等、災害への対応力を行政と市民が一体となって進め、機能する体制を構築する必要があります。特に、通信施設や食料などライフラインの確保については、早急に対策を講じてまいります。

終わりに、新たな行財政改革に着手してまいります。3期11年にわたる行財政改革の取り組みにより、行政のスリム化は大きく進展しましたが、国・地方を含む1千兆円に及ぶ負債や地域主権大綱に基づく2次一括法の制定により、行財政環境は大きく変化することが予測されます。これまで以上に、自立が求められ、人口減少による市税の落ち込みや公共施設の老朽化による施設維持のための財政需要が高まることが想定され、行財政の基盤強化に努めていく必要があります。行政評価や人事評価に取り組み、事務事業の見直しや効率的・効果的な事務執行に努めてまいります。

以上、これから市政を運営するにあたっての基本政策を述べさせていただきましたが、具体的予算措置は、6月議会で肉付けをしてまいります。

私は、信頼性の高い市政を確立するためには、情報の公開と法令を遵守する一方、不当要求行為などは、徹底的に排除するなど、社会全体の利益を追求し、公平かつ公正、そして市民にわかりやすい市政運営を行う必要があると考えております。市民起点の西之表市を創造するため、市民の皆様、議員各位、そして職員と、さまざまな角度から活発な議論を行い、諸政策を着実に実行してまいりたいと考えております。創意工夫をし、熱意と誠意をもって、「元気で力づよい、未来への飛躍のために」取り組んでまいる所存であります。

それでは、本日提案いたしました議案についてご説明いたします。

本定例会に提案いたしました議案は、現和簡易水道事業の廃止など廃止議案5件、西之表市水道事業の給水区域変更など変更議案2件、西之表市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定など条例の一部を改正する条例議案11件、損害賠償の額を定める議案1件、平成24年度西之表市一般会計補正予算ほか補正予算議案6件、西之表市地域の元気臨時交付金基金条例など新規制定議案9件、鹿児島県市町村総合事務組合の規約の一部変更など変更議案2件、平成25年度西之表市一般会計予算など予算関係議案8件の合計44件であります。

主な議案についてご説明いたします。

議案第4号から議案第7号は、平成19年度に策定した簡易水道事業統合計画に従い、現和・安納・岳之田・田之脇の各簡易水道事業を施設整備を伴わず、西之表市水道事業に会計統合するものです。

議案第8号及び議案第9号は、今ほど述べました簡易水道事業の統合に伴い、西之表市上水道事業の給水区域を変更するとともに、簡易水道事業数の減少及び西之表市給水区域を拡充するため、条例の一部を改正するものです。

議案第10号は、市役所構内で発生した車両事故について、和解が成立し、損害賠償額が確定したことから、地方自治法第96条第1項第12号及び13号の規定に基づき議会の議決を求めるものです。

議案第12号から議案第17号は、平成24年度西之表市一般会計補正予算及び平成24年度西之表市特別会計補正予算並びに西之表市水道事業会計補正予算であります。

議案第12号は、平成24年度西之表市一般会計補正予算第5号であります。

本予算の主なものは、歳出で、職員の早期退職4名分に係る退職

手当、8千3百38万3千円の追加、財政調整基金に6千1百91万3千円を積み立て、電算システムの基幹業務を鹿児島県町村会へ移行し、共同処理することとしていますが、データ移行が平成25年度に変更されたため、委託料及び賃借料を6千4百26万2千円減額、国民健康保険の財政基盤強化を図る保険基盤安定事業への一般会計からの繰出金1千1百6万9千円の追加、農作物の食害に対応する鳥獣被害防止施設緊急整備事業に1千1百98万円の追加、かごしま園芸産地整備事業に1千5百39万8千円の追加、市道安城平松線、西町上之原線及び洲之崎9号線の事業費の確定に伴う5千3百59万5千円の減額、平成18年度に^{かりいれ}借入した退職手当債の繰上償還を行うため1億1千8百24万1千円を追加、歳入では、道路建設のための社会資本整備総合交付金で3千4百2万2千円の減額、鳥獣被害防止施設緊急整備事業など農業費補助金で2千7百24万3千円の追加、財源調整として、基金繰入金で1億8千3百67万1千円を繰り入れ予算調整いたしました。これにより、平成24年度末財政調整基金残高は、6億8千1百24万8千円となる見込みです。

この結果、歳入歳出予算の総額に1億4千1百95万1千円を追

加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ9億6千9百74万4千円とするものであります。

なお、国の平成24年度補正予算が成立し、安納簡易水道の統合整備事業が採択されたため、議案第49号として、平成24年度西之表市簡易水道特別補正予算第5号を本定例会に追加上程いたしますのでご審議方をお願いいたします。

議案第18号は、西之表市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。

「わたり」の是正を行うための給料の切り替え措置、技能労務職員に対する給料表の導入、去年の人事院勧告による55歳を超える職員の昇給停止、高位の号俸から昇格した場合の給料月額増加額の縮減、並びに、引き続き職員給与を平均3.5%削減するための規定を定めようとするものであります。

議案第20号は、職員の退職手当を平成25年度から平成27年度の3か年で約400万円引き下げようとするものであります。

議案第21号は、西之表市長、副市長及び教育長の給料を引き続き、それぞれ30%、20%、10%削減しようとするものであります。

議案第23号は、国の平成24年度補正予算が成立し、地域経済の活性化と雇用の創出を図る「地域の元気臨時交付金」が交付されることから、本市が活用可能な財源を基金に積み立て、その全額を繰越して、平成25年度において執行するため、本基金を制定しようとするものです。なお、これに伴います補正予算を議案第48号平成24年度西之表市一般会計補正予算第6号として本定例会に追加上程しますので、併せて、ご審議方をお願いいたします。

議案第25号から議案第28号及び議案第30号から議案第35号は、地方分権を進めるための地域主権戦略大綱を踏まえ、第2次一括法として関係法律の整備を図った、「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」が施行され、これまで法律で一律に規定されていたものが地域の実情に応じて定められることとなったため、それぞれの条例を定め、または、条例の一部を改正しようとするものです。

議案第36号及び議案第37号は、助成対象範囲が拡大されたため、それぞれの条例の一部を改正しようとするものです。

議案第38号から議案第44号は、平成25年度西之表市一般会計予算及び平成25年度西之表市特別会計予算並びに西之表市水道

事業会計予算であります。

平成25年度西之表市一般会計当初予算につきましては、骨格予算といたしました。従いまして、政策的なものは極力除いておりますが、市民サービスに影響を及ぼすものについては、予算計上いたしましたので、ご審議方をお願いいたします。

国の大型補正予算編成を踏まえ、切れ目のない連続的な予算編成を考えておりましたが、現時点で、国の補正に係る「地域の元気臨時交付金」は、2千3百15万円と少額にとどまっており、実質的経済効果は乏しいものとなっております。

さて、平成25年度西之表市一般会計予算は、予算総額を歳入歳出それぞれ89億9千万円、対前年度比、額にして2億4千万円、率にして2.7パーセントの伸びとしています。予算の主なものについてご説明いたします。

退職手当として、一般職員及び特別職分合わせて14名分、3億4千5百15万1千円、第5次長期振興計画・後期計画策定のための経費、7百65万1千円、市民提案の事業を行政と一体となって進め、協働による活力ある地域社会づくりを推進する「協働の地域づくり推進事業」に1百万円、独身男女の出会いの場を確保する「婚

活応援プロジェクト事業」に73万円、上西及び中割校区が地域資源を活用して、地域おこしに取り組む、「共生・協働のむらづくり活性化事業及びなかわり生姜山農園自立支援事業」に各50万円、漁場の再生等漁業集落の振興を図る「離島漁業再生交付金事業」に3千6百72万円、グリーツリズムを活用した修学旅行の誘致や歴史・文化等地域資源を活用した滞在型交流観光を促進する「滞在・交流型観光促進事業」に1千5百58万円、まちなか芸術祭、食に関するイベント、チャレンジショップなどの空き店舗対策などに加え、テレビ放映されたロボティクス・ノーツを活用した複合的なまちづくりを行う「中心市街地活性化事業」に2百40万円、高齢者や障害者の見守り、生活支援ボランティアの育成を行うためのコーディネーターを配置する「暮らし安心・地域支え合い事業」に2百97万4千円、子どもの誕生をお祝いする「子育て応援券支給事業」に1百76万7千円、平成28年5月に停波するアナログ波をデジタル化する「消防救急無線デジタル化事業」に1億3千2百14万6千円、西京苑の建て替えを行う「汚泥再生処理センター整備事業」に6億8千66万4千円、老朽化した橋梁の整備計画を策定する「社会資本整備総合交付金事業」に9百万円、小規模校の特色と島の様々

な体験活動を活かし、島外の児童を一般家庭に受け入れる「山村留学里親等支援事業」に60万円、特認校制度の一層の活用を図る「小規模校特認通学制度通学支援事業」に2百20万円、古田獅子舞伝承100周年を記念する経費として、72万円を計上しています。

次に、地方交付税を39億3千1百24万7千円と見込み計上いたしましたが、対前年度比、1億7千4百31万4千円、率にして4.2パーセントの減少となっています。

市民の皆様並びに議員各位には一層のご理解とご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げますとともに、議員各位にご審議をお願い申し上げます、私の市政に対する所信表明及び提案理由の説明といたします。